

そんな妻の畑の成長を見てみると、わたしの畑も欲しくなってきた。何かを育てるのは楽しそうに見えるものだ。しかし、またMさんに暗渠排水を頼むのも気が引けたし、わたしのわがままをそう大げさにする必要もないと思った。なんせ飽きっぽい性格なので耕作放棄地ができてしまうことになりかねない。そこでいろいろ調べているとレイズドベットという方法があることがわかった。これはイギリスのガーデンングで、庭の片隅に家庭菜園をつくるのに適した方法だという。紹介されるのはいがいの木の板で枠をくつつてそこに土を入れ野菜を高植えするというものだ。これなら水はけの悪い土地でも作れるのではないかと思った。ただ、ガーデンングというにはワイルドな原野なので、そこにあるもので作れないか試行錯誤を試してみた。

とにかくうちには折れてしまった枝がたくさん出る。そのうち比較的真っ直ぐで適度な太さのあるものを選んで、鉋で先を鉛筆を削るように尖らせて杭をつくる。最初は一本削るのに結構時間がかかったし腕も痛くなったが、そのうち慣れてくるとどんどんできるようになってきた。その杭を湿地に打ち込み植える樹の形をつくっていく。そのあと、しなやかに曲がる柳の小枝を杭に編み込んでいく。五十センチメートルくらいの高さまで小枝を編みながら積み上げれば樹の完成だ。これだと、もし畑がうまくいかなくても材料を土に還すことができる。あとは礫と黒土と落ち葉でつくった腐葉土と酸性をやわらげるために石灰をまぜ入れてレイズドベットの畑の完成だ。ワイルドな原野にも馴染むのも良い。調子にのって二つもつくってしまったが、はて、何を植えるか。

できるならタネから育てたいところだが、なにせ小学校の夏休みの成長日記以来のことだから無理はしないで、近郊の農家さんの元気な苗に頼ることにした。手に入れたのはパセリ、イタリアンパセリ、セロリ、パクチー、アーティチョーク、オレンジバーム、バジル、セージだったかな。それにミニトマト。あと、彩りにナスタチウムとマリーゴールドも加えた。彩りといってもナスタチウムはわさびのような味がして食べられるし、マリーゴールドはトマトなどと相性が良く病気や虫から守ってくれるようだ。

中央にミニトマトを植えるとして支柱をつくらなければならぬが、レイズドベットをつくる時に使った柳の枝を使ってみた。円錐形に仕立ててみたが自然の材料なのであまり違和感なく風景に馴染んでくれた。そればかりかしばらく経つと支柱から葉っぱが出てきて生きた木でできた支柱になった。トマトもこの支柱が気に入ったのか、マリーゴールドに助けられたのか、ぐんぐん育つて実をたくさんつけてくれた。

毎朝、天気が悪くても悪くてもレイズドベットの畑を見回り、ちょうど食べ頃のを収穫して、朝ごはんに添えるのが日課になってしまった。それでもピークになると二人では食べきれない。やはり、身の回りの自然や人々がもたらしてくれる恵みきちんといいただき、そのうえに日々の彩りをそえる作物をいただく。それがわたしたちの地給自足のスタイルとしておこう。

